

# 審議事項・スケジュール(案)

# 第1回技術安全WGにおける審議事項①

- 資料3(車両安全対策を取り巻く状況)及び資料4(車両安全対策の実施状況)における背景や課題を踏まえて、以下の点に留意しつつ、今後どのように車両安全対策を進めていくべきか？

## <車両安全対策を取り巻く状況>

### 1. 政府の取組み

- 現在、**第11次交通安全基本計画**(R3～R7年度)を策定中。  
(24時間以内死者数目標案:**2,000人以下**、重傷者数目標案:**22,000人以下**)

### 2. 交通事故の状況

- 交通事故死者数は3,215人、負傷者数約46万人(令和元年)。更なる減少に向けて対策が必要。

#### <状態別>

- 交通事故死者数の**約5割は「歩行中」と「自転車乗車中」**。その約7割は65歳以上の高齢者。
- 「歩行中」の死亡事故について、**約7割が「夜間」**に発生。
  - ・歩行者側:**約7割が「横断中」**に発生し、約1割が「路上横臥」  
約6割が**「横断に関する違反」**(車両の直前直後や、横断歩道外での横断)。
  - ・自動車側:約8割が**「直進中」**に発生し、原因の約7割が運転者による**「発見の遅れ」**。  
約1割が「右折時」に発生し、原因の約8割が運転者による「安全不確認」。
- 「自転車乗車中」の死亡事故について、
  - ・死者数では**「出会い頭」**が最多、致死率では**「追突」**が突出して高い。
  - ・追突事故における第1当事者の大半は四輪車で、その約7割が**「夜間」**に発生。

#### 【2に係る論点の例】

歩行者や自転車の事故防止に向けて、車側からどのような安全対策を推進していくべきか？

# 第1回技術安全WGにおける審議事項②

## 2. 交通事故の状況(続き)

### <年齢層別>

- 交通事故死者数のうち、65歳以上の高齢者は約6割、75歳以上の高齢者は約4割を占める。
- 死亡事故の**第1当事者の約3割は65歳以上の高齢者**。また、75歳以上の高齢者において、**運転操作ミス**(ハンドル操作不適、ペダル踏み間違い)に起因する死亡事故類型が最も多い。
- 未就学児の死傷者数は「**自動車乗車中**」が大半を占める。一方、小学生の死傷者数は「**歩行中**」と「**自転車乗車中**」が過半を占める。

### <車種別>

- 事業用トラックによる交通事故死者数は減少傾向。事業用バス及びハイヤー・タクシーは横ばい。
- **大型トラック**及び**二輪車**は、第一当事者となる事故において**致死率**が高い。
- 乗合バスの車内事故のうち、高齢者の重傷者数の割合が高い。

### <受傷部位別>

- 「自動車乗車中」の死亡事故における損傷主部位は、過去10年間で「頭顔部」から「**胸部**」に変化。
- 「二輪車乗車中」、「自転車乗車中」及び「歩行中」の死亡事故における損傷主部位は、依然として「**頭顔部**」が大半を占める。

## 3. 社会環境の変化

- 少子高齢化に加え、高齢者の高齢化が進行中。これに伴い、高齢ドライバーが増加。
- MaaSなどの移動サービスの拡大や、アフター・コロナにおける移動手段に変化あり。
- いわゆる「あおり運転」について、従来にも増して社会問題化。

### 【2.、3.に係る論点の例】

高齢者や子どもの事故防止・被害軽減を、どのように行っていくべきか？

# 第1回技術安全WGにおける審議事項③

## 4. 技術の進化

- 世界的に、システムが監視(レベル3以上)を行う自動運転技術の開発・社会実装が加速化。
- 安全運転支援装置(レベル2以下)について、各装置の作動範囲拡大や性能向上が進むとともに、装置の多様化も進む。
- より性能の高い衝突被害軽減ブレーキを装着している自動車の方が、保有台数あたりの事故件数が少ないことを確認。
- V2X(車車間/路車間通信)や車両情報記録等の技術向上により、自動車のIoT化・コネクティッド化が更に進展。
- 電動車両の普及とともに、エネルギー密度向上など電池関連技術が多様化・高度化。

## 5. 基準の国際調和

- 国連WP29における取組みを通じ、自動運転技術を含む自動車基準の国際調和などが進む。

### 【4.、5.に係る論点の例】

交通事故削減に向けて、一層発展する先進安全技術をどのように活用・推進していくべきか？

# 第1回技術安全WGにおける審議事項④

## ＜車両安全対策の実施状況＞

### 1. これまでの車両安全対策

- 事故実態の分析に基づき、「低減目標の設定」→「対策の実施」→「効果の評価」のPDCAサイクルを継続実施(交通安全基本計画の目標を踏まえつつ、**車両安全対策の目標を設定**)。
- 車両安全対策は、技術開発を阻害しないよう、技術の進展と普及状況に応じ、段階的に施策を実施。
- ①安全基準等の拡充・強化、②ASV推進計画、③自動車アセスメントを連携しながら実施。

### 2. 安全基準等

- 事故分析の結果、新技術の動向等を踏まえ、科学的で効果と負担のバランスがとれ、技術の多様性が尊重される形で、かつ、透明性をもって安全基準を策定。
- 交通事故の**詳細調査(マイクロデータ)と医療データを統合(医工連携)**することで、詳細な事故分析を実施。
- 平成28年報告書に基づき、**歩行者・自転車対策、乗員保護対策、大型車対策、新技術(自動運転等)に関する基準策定**とともに、法令に基づく義務付け等を実施。
- 我が国の安全基準の多くは**国際基準と調和済み**。

### 3. ASV推進計画

- これまで約30年にわたり実施している**技術開発・実用化・普及を促進するプロジェクト**であり、現在、第6期期間中。**ドライバー異常時対応システム**や**自動速度制御装置(ISA)**などについて技術ガイドラインを策定することにより、多くのASV装置の開発促進をサポート。
- 事故時に被害が甚大となる大型車に対し、購入補助や税制上の特例等の施策を講じることにより、**ASV装置の普及**を促進。

# 第1回技術安全WGにおける審議事項④

## 4. 自動車アセスメント

- 自動車ユーザーに対する情報提供・理解促進に加え、自動車メーカーの技術開発促進を通し、より安全な自動車を普及させる目的で、平成7年度より実施。
- **衝突被害軽減ブレーキの評価項目の拡大**をはじめ、**ペダル踏み間違い時加速抑制装置**等に対する評価を開始。また、令和2年度より、評価結果を分かりやすくするため、「**統合評価**」を開始。
- 予防安全性能アセスメントの開始により、評価対象装置が**急速に普及**。

### 【1.～4.に係る論点の例】

車両安全対策(安全基準等、ASV推進計画、自動車アセスメント)を実施するためには、どのような取り組みを行うべきか？また、交通事故分析を行うには、どのような取り組みが必要か？

## 5. 自動運転

- 自動運転技術の進展・実用化に応じた制度整備を行うため、令和元年に**道路運送車両法の改正**に加え、関連法令の策定を実施。
- 国連WP29において、高度な自動運転機能に関する技術基準や自動運転車に対する認証方法を含めた安全対策のあり方について議論が継続中。我が国も、専門家会合等の多くで**議長**等を務めるなど、当該議論に積極的に参加。
- 安全の確保を前提に、無人自動運転移動サービス車両等の社会実装に向け、**実証実験や技術要件の策定**等の取組みを実施中。

### 【5.に係る論点の例】

自動運転車(レベル3以上)の安全確保のあり方はどうあるべきか？また、自動運転車の社会実装をどのように進めていくべきか？その際の注意点は何か？

# 第1回技術安全WGにおける審議事項⑤

## 6. 関連政策等(高齢運転者対策、先進安全技術、その他モビリティ)

- 昨年6月に政府が策定した「未就学児等及び高齢運転者の交通安全緊急対策」に基づき、安全基準の強化、認定制度の創設等を通し、**新車及び既販車に対する安全対策**を加速化。
- 従来にも増して社会問題化している高齢運転者による事故やあおり運転について、関係省庁連携の上、**「安全運転サポート車」やドライブレコーダーなどの普及啓発**を実施。
- 一方、「安全運転サポート車」の普及拡大を背景に、自動車ユーザーが**先進安全技術を過信**して事故に至ったのではないかと疑われる事案や、先進安全技術に関して**想定外の事象を経験**する自動車ユーザーが存在。
- 多様な移動手段を確保するため、**超小型モビリティ**に関する取組みに加え、技術の進展やニーズの変化に伴い、関係省庁連携の上、電動キックボードや自動配送ロボットなど**多様な小型モビリティに係る安全確保策**を検討中。

### 【6.に係る論点の例】

「安全運転サポート車」などに搭載される先進安全技術の普及・利活用を推進するにあたり、社会受容性など注意すべき視点は何か？

# 審議スケジュール(案)

	第1回 (11月13日)	第2回 (12月17日)	第3回 (1月下旬)	第4回 (3月)	第5回 (4月下旬)
審議事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>○車両安全対策を取り巻く状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>◆政府の取組み</li> <li>◆交通事故の分析</li> <li>◆社会環境の変化</li> <li>◆技術の進化</li> <li>◆国際基準調和</li> </ul> </li> <li>○車両安全対策の実施状況               <ul style="list-style-type: none"> <li>◆これまでの対策(安全基準、ASV推進計画、自動車アセスメント、医工連携)</li> <li>◆自動運転</li> <li>◆関連政策等</li> </ul> </li> <li>○審議事項(案)の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○関係者ヒアリング</li> <li>○削減目標の達成状況</li> <li>○論点整理(案)の審議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○報告書骨子案の審議</li> <li>○今後の車両安全対策案の提示               <ul style="list-style-type: none"> <li>◆次期削減目標の策定方針案</li> <li>◆重点項目</li> </ul> </li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○報告書案の審議</li> <li>○次期削減目標案の提示</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○報告書とりまとめ</li> </ul>